

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991800093	
法人名	社会福祉法人 寿ノ家	
事業所名	寿ノ家 グループホームみさか	
所在地	山梨県笛吹市御坂町下野原839-1	
自己評価作成日	平成29年 8月26日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会	
所在地	甲府市北新1-2-12	
訪問調査日	平成29年9月19日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して3年目に入った。この2年間を振り返り新たな気持ちで、法人の理念である「心をこめて1人一人を大切に」を全職員が心がけている。グループホームみさかは『個々のペースに合わせたゆったりとした暮らしづくり』をテーマに、さらに各ユニット毎に目標をつくり取り組んでいる。グループホームの家庭的であるという特色を活かし「一人一人の思いや願いを」を大切に細やかな個別対応、入居者様が主体的に、ゆったりと安心して暮らして頂けるように、個々の生活を大切に環境づくりに努めている。24時間軸のアセスメント、ご家族様との連携をさらに深め、日々の中では、本人のできる事を職員と共にやり寄り添った支援を心掛けている。また、地域密着型サービス事業所として、毎月地域サロン「縁」を開催して地域との関係づくりを積み重ね、地域の方が集う場所となれるように発信し、地域の開かれた存在となれる事業所を目指す。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高台で住宅や果樹園に囲まれ市街地にも近く利便性の良い場所にある。建物は、一階が小規模多機能型居宅介護と地域交流室で二階が認知症対応型グループホームになっている。毎月第三水曜日にサロン「縁」が開催され地域の方との交流の場となっている。グループホームの本質である自宅からの生活が継続されることを目標に経験豊富な有資格職員が多い。各フロアの掃除は、職員と利用者が一緒に行い、いつもきれいな状態になっている。洗濯や調理等もそれぞれの利用者に役割があって皆が生き活きと生活している、利用者の主体性と利用者最優先の対応が職員に徹底出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心をこめてひとりひとりを大切に」という法人理念については、4月に法人内での研修会があり全職員が確認している。また、年度の事業計画に基づいて、職員が個々に目標を立てて取り組んでいる。(上期・下期)	「心をこめてひとりひとりを大切に」という法人理念については、4月に法人内での研修会があり全職員が確認している。また、年度の事業計画に基づいて、職員が個々に目標を立てて取り組んでいる。(上期・下期)	フロアの目につきやすい場所に理念を掲示したり、個人ファイルの1ページに理念をつくり記録するたびに意識出来る様にしている。毎朝の利用者と職員の会は、その日の予定や利用者にな何をしたいか等を聞き可能な限り本人の意に沿う支援をしている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月第3水曜日の午後、サロン「縁」を開催して地域の方との交流を図っている。サロンに地域のボランティアさんも来て下さる。地域のお祭りへのお誘いもある。近所のお店や床屋、美容院、食堂に出掛けて話をしている。	毎月第3水曜日の午後、サロン「縁」を開催して地域の方との交流を図っている。サロンに地域のボランティアさんも来て下さる。地域のお祭りへのお誘いもある。近所のお店や床屋、美容院、食堂に出掛けて話をしている。	定期的にサロンを開催されており、地域の方々と交流を図っている。大正琴や踊りなど、地域で活動されている方がボランティアで参加していたり、地域の行事への参加も積極的に行われている。お祭りの際には子どもみこしが訪れるなど、地域の中しっかりと位置付けられている。また、午後の時間には近所へ買い物も出かけており、日頃から地域での交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内に地域交流室と認知症相談室があるので活用して頂けるように発信している。今後、地域の方に認知症サポーター養成講座や認知症カフェを検討しているところである。	事業所内に地域交流室と認知症相談室があるので活用して頂けるように発信している。今後、地域の方に認知症サポーター養成講座や認知症カフェを検討しているところである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催して、事業内容や入居者様の活動の様子を報告している。運営推進会議のメンバーや御家族様より意見やアドバイスを頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催して、事業内容や入居者様の活動の様子を報告している。運営推進会議のメンバーや御家族様より意見やアドバイスを頂いている。	事業所からは、活動報告や職員の研修報告などを行ない参加委員の意見を聞いている。委員から地域と防災協力協定を結んだらどうかとのアドバイスがあり、今年度協定書を交わすことが出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の長寿介護課・地域包括支援センターの職員が毎回参加して下さり、相談や協力をいただける関係づくりができています。	運営推進会議には、市の長寿介護課・地域包括支援センターの職員が毎回参加して下さり、相談や協力をいただける関係づくりができています。	介護保険の更新時や介護度の変更手続きなどで役所に行った際は、情報交換や困った事等を気軽に相談している。認知症カフェの開催を予定しておりそれについての話し合い等日頃から協力関係が築けるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。事業所内の火災訓練を年2回行っている。災害時の地域との協定を結び一時避難所として使用してもらう	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される	職員の代表が、月1回法人の事故ヒヤリ対策委員会に参加し結果をミーティング時に報告して全職員に周知している。日常生活支援の中で言葉が強くなったりした時は、職員同士でお互いに注意し合っている。接遇研修では、言葉のかけ方や接し方などを学び研修を通して職員のレベルアップを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催されている。	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催されている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加した職員が他メンバーに伝えている。	権利擁護の研修会に参加した職員が他メンバーに伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居については、都度説明を行い理解を得ている。また、重要事項変更等がある際は、説明して同意を得ている。入居時は本人にも出来る限り見学に来ていただき、ホームの様子を見て頂くようにしている。	入退居については、都度説明を行い理解を得ている。また、重要事項変更等がある際は、説明して同意を得ている。入居時は本人にも出来る限り見学に来ていただき、ホームの様子を見て頂くようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己		項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
外部	ユニット名(小春(こはる))		ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にカンファレンスを定期的に行い、意見や要望を確認している。ご家族様の面会も多いので、都度話をしている。また、苦情を伝えられるように連絡先を明確にしている。	定期的にカンファレンスを定期的に行い、意見や要望を確認している。ご家族様の面会も多いので、都度話をしている。また、苦情を伝えられるように連絡先を明確にしている。	家族の面会は、1日平均2~3人位ある。気づいたことは遠慮なく言ってもらえる関係づくりに努めている。家族から「夕食づくりの時は職員が手薄になるのではないか?」「同じ服着ているが?」との声があり、ミーティングで対応策を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットミーティングの中で出た意見や課題はリーダー会議にて職員の意見や提案を反映させている。また、「私の意見と希望」にて代表者との面接する機会がある。	毎月ユニットミーティングの中で出た意見や課題はリーダー会議にて職員の意見や提案を反映させている。また、「私の意見と希望」にて代表者との面接する機会がある。	月1回ユニット会議、リーダー会議で出た意見は管理者から法人の責任者へと意見や要望が聞いてもらえるシステムが出来ている。妊娠中の職員のフォローや気遣いも職員同志自然な形で出来ている。資格取得助成制度もあり、休暇も取りやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期において個人目標を立て、個々に面接を行っている。	上期・下期において個人目標を立て、個々に面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会(全体研修とステップアップ研修)が毎月開催されている。事業所内での勉強会を実施している。外部研修にも行く機会を作りスキルアップを図っている。新人教育に於いてはプリセプターにてお互いに向上できるように取り組んでいる。	法人内の勉強会(全体研修とステップアップ研修)が毎月開催されている。事業所内での勉強会を実施している。外部研修にも行く機会を作りスキルアップを図っている。新人教育に於いてはプリセプターにてお互いに向上できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症GH協会へ入会している。山梨県支部の研修会等に参加している。県のGH協会の研修に参加して相互訪問の活動ができるようにネットワークづくりをしていきたい。	日本認知症GH協会へ入会している。山梨県支部の研修会等に参加している。県のGH協会の研修に参加して相互訪問の活動ができるようにネットワークづくりをしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ひとりひとりに担当職員をつけて本人の想いを引き出せるように取り組んでいる。本人の言葉や表情の観察を記録に残し、職員間で情報の共有をしている。	入居者ひとりひとりに担当職員をつけて本人の想いを引き出せるように取り組んでいる。本人の言葉や表情の観察を記録に残し、職員間で情報の共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をしていただきご家族様より話しを伺っている。ご家族様との信頼関係を構築できるように話す明日い雰囲気心掛けている。	入居前に見学をしていただきご家族様より話しを伺っている。ご家族様との信頼関係を構築できるように話す明日い雰囲気心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当を中心として、まずは暫定プランを作成して1か月後を目安にカンファレンスを行っている。ケアプランの内容は生活チェック表で毎日確認して、月の終わりにはモニタリングを行いケアプランの見直しを行う	計画作成担当を中心として、まずは暫定プランを作成して1か月後を目安にカンファレンスを行っている。ケアプランの内容は生活チェック表で毎日確認して、月の終わりにはモニタリングを行いケアプランの見直しを行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事が継続出来るように、また、役割が持てるように取り組んでいる。入居者様が主体であるという事を基本に支援することに努めている。	本人のできる事が継続出来るように、また、役割が持てるように取り組んでいる。入居者様が主体であるという事を基本に支援することに努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会が多く、本人と家族との絆は大切にしている。ご家族がホームに来やすい雰囲気をつくっている。家族とのコミュニケーションを大切に連携を図り、ここにおいても家族の一員として過ごせるように支援している。	御家族様の面会が多く、本人と家族との絆は大切にしている。ご家族がホームに来やすい雰囲気をつくっている。家族とのコミュニケーションを大切に連携を図り、ここにおいても家族の一員として過ごせるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のご意向で、近所の食堂にご飯を食べに行く、馴染みの床屋さんに行く、買い物に行くなど個別に外出している。また、兄弟や知人の面会もある。	本人のご意向で、近所の食堂にご飯を食べに行く、馴染みの床屋さんに行く、買い物に行くなど個別に外出している。また、兄弟や知人の面会もある。	利用者の意向を重視して馴染みの関係が継続できる様に支援している。大正琴を職員と一緒に練習している利用者もいる。入居時に24時間シートを使って一日どんな風に過ごして居たのか聞きとり、入居前の生活に出来るだけ近づけるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝、朝会を行い一人一人が自己紹介を行いながら入居者同士の関係を深めている。また、食事の席を適宜調整しながら関わりが深められるように支援している。職員が随時橋渡しをしている。	毎朝、朝会を行い一人一人が自己紹介を行いながら入居者同士の関係を深めている。また、食事の席を適宜調整しながら関わりが深められるように支援している。職員が随時橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はなし	現在はなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から出た言葉や話をゆっくり丁寧に聴くことを大切にしている。本人がうまく言葉を出し出せない方には声掛けを多くして表情の観察をしている。職員間で情報交換を行っている。	本人から出た言葉や話をゆっくり丁寧に聴くことを大切にしている。本人がうまく言葉を出し出せない方には声掛けを多くして表情の観察をしている。職員間で情報交換を行っている。	毎日行う朝の会は、月、日、曜日、季節などを確認して一人ひとりに自己紹介、その日にやりたい事を聞いている。声を出してもらうことで利用者の体調やその日の状態が確認できる。困難な利用者は、声掛けや表情の観察を適宜に行い、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様より情報を得ている。今までできていた楽しみが継続できるように努めている。1名ベットではなく布団を敷いて寝ている方もいる。	ご本人や家族様より情報を得ている。今までできていた楽しみが継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活支援が出来るように、24時間軸のアセスメント、毎月の評価やカンファレンス、ミーティングを通じて職員間で話しをしている。	24時間の生活支援が出来るように、24時間軸のアセスメント、毎月の評価やカンファレンス、ミーティングを通じて職員間で話しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、計画作成担当と一緒に話し合い、看護やリハスタッフにも相談を含めた中でサービス計画を作成している。	本人、家族、職員、計画作成担当と一緒に話し合い、看護やリハスタッフにも相談を含めた中でサービス計画を作成している。	生活リハビリテーション評価票や毎月の担当職員の評価・毎日の生活チェック表から3か月毎にカンファレンスを行い、半年毎に家族カンファレンスを行っている。入院等大きな変化があった時等は、その時々の状態にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については個別の記録に残している。また、情報共有ノートを活用して職員間で情報共有をしている。	日々の様子については個別の記録に残している。また、情報共有ノートを活用して職員間で情報共有をしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、状況に応じて柔軟な対応ができるようにご家族様とのコミュニケーションを図り対応している。	都度、状況に応じて柔軟な対応ができるようにご家族様とのコミュニケーションを図り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの店に出掛けたり、地域サロンを行う中で地域との繋がりを大切にしている。地域のボランティアさんを募集している。	なじみの店に出掛けたり、地域サロンを行う中で地域との繋がりを大切にしている。地域のボランティアさんを募集している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに医療連携ができる協力診療所がある。定期受診時にはご家族様と情報を確認している。こちらで受診対応をしている方については、必要に応じてご家族様と主治医の面談が行えるように連携を図り、緊急時の対応については都度話し合いをしている。	近くに医療連携ができる協力診療所がある。定期受診時にはご家族様と情報を確認している。こちらで受診対応をしている方については、必要に応じてご家族様と主治医の面談が行えるように連携を図り、緊急時の対応については都度話し合いをしている。	通院は馴染みの医院に家族対応で行っている。その際は、事業所からも情報提供を行い、受診後の様子は家族から報告がある。薬は処方箋を預かり事業所で対応している、法人とのオンコール体制があり、毎週水曜日には看護師が来てバイタルチェックをし、気になることは相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護による健康チェックがある。また、何かあればすぐに相談できる体制がある。	週1回、訪問看護による健康チェックがある。また、何かあればすぐに相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院には病院のMSWとのやり取りを行っている。退院に向けてはカンファレンスやサマリー等をいただき情報交換を行っている。	入退院には病院のMSWとのやり取りを行っている。退院に向けてはカンファレンスやサマリー等をいただき情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針をお伝えしている。現在、看取りのご意向確認書を確認している。その時期に入る時にご意向の再確認をしている。	入居時に看取りの指針をお伝えしている。現在、看取りのご意向確認書を確認している。その時期に入る時にご意向の再確認をしている。	重度化した時には、主治医から家族に説明をし再度看取りの確認を行う。看取り期には、家族が自由にいつでも面会や付き添いが出来る支援をしている。看取りプランも作成し、看取りのマニュアルもある。最近二人の利用者を看取り、アフターカンファレンスもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応については法人内に委員会が設置しておりマニュアルがある。また、勉強会で学ぶ機会が設けられている。緊急時の対応については、連絡体制を作っている。事業所内にはAEDが設置されており使い方の勉強会をしている。また、吸引器の使い方も勉強している	事故発生対応については法人内に委員会が設置しておりマニュアルがある。また、勉強会で学ぶ機会が設けられている。緊急時の対応については、連絡体制を作っている。事業所内にはAEDが設置されており使い方の勉強会をしている。また、吸引器の使い方も勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。事業所内の火災訓練を年2回行っている。災害時の地域との協定を結び一時避難所として使用してもらう。	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。事業所内の火災訓練を年2回行っている。災害時の地域との協定を結び一時避難所として使用してもらう。	年2回日中、夜間を想定した避難訓練を実施している火災報知機を押すと消防署につながり消防は4分で駆けつけられる。避難経路は、まず出火場所の反対のユニット・次にベランダに出て・階段や滑り台で外に避難となっている。地域と防災協力協定が結んであり、事業所も災害時には一時避難所となる。食料の備蓄もあり、備蓄一覧表も作成してある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に介護の基本姿勢とグループホームの倫理要綱を確認してもらっている。基本姿勢にある利用者の8大権利の中において、プライバシー保護については明確化されている。	全職員に介護の基本姿勢とグループホームの倫理要綱を確認してもらっている。基本姿勢にある利用者の8大権利の中において、プライバシー保護については明確化されている。	法人が行う接遇研修で介護の基本姿勢を学んでいる。また、法人で作成したマニュアルをふり返り認知症の方の基本的な理解や対応姿勢を学んでいる。毎日の支援は、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、朝食において一人一人の本日の予定を聞いている。本人から言葉が表出できるようにしている。また、何かする時は必ず本人に確認している。	一人一人の思いや希望を確認している。本人からの言葉が表出できるように声掛けを多くしている。また、何かする時は必ず本人に確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の朝食において、予定を確認しながら要望には出来る限り添える様に支援している。	本人の言葉より想いを確認している。本人からの言葉が表出できるように声掛けを多くしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容院や床屋に出掛けている。入浴は毎日入れるようになっているので、入りたい時に入れる体制がある。着替えについては、本人に選んでいただくように声を掛けている。	定期的に馴染みの美容院や床屋に出掛けている。入浴は毎日入れるようになっているので、入りたい時に入れる体制がある。着替えについては、本人に選んでいただくように声を掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、職員と話しながら一緒に行うようにしている。食べたいものや好みの食材を聞き、献立に入れている。毎週、パン屋さんやヤクルトさんが来るのを楽しみとしている。	本人の好みを大切にしている。嚥下状態に合わせた食事の提供をしている。毎週、パン屋さんやヤクルトさんが来るのを楽しみとしている。	献立は民間業者が作成しているが、月に3~4回はお楽しみ食事で外食や好きなものを買ってきて作って食べている。利用者一人ひとりに合わせた手伝いをさりげなく声掛けて一緒に作ったり片付けている。食事時は、職員が見守り会話しながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材のカロリーやバランスにおいては献立表に記載がある。食事量や水分量については個々のチェック表に記入して確認している。	食材のカロリーやバランスにおいては献立表に記載がある。食事量や水分量については個々のチェック表に記入して確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に合わせた口腔ケアを支援している。衛生士さんによる口腔ケア指導を受けて、個々の状態に合わせた口腔ケアをしている。	毎食後に個々に合わせた口腔ケアを支援している。衛生士さんによる口腔ケア指導を受けて、個々の状態に合わせた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のペース、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認して声を掛けている。また、本人の言葉やサインをみてトイレ誘導をしている。排泄物品については都度検討をしている。	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認して声を掛けている。また、本人の言葉やサインをみてトイレ誘導をしている。排泄物品については都度検討をしている。	排泄チェック表で個人の排泄パターンを確認し支援が行われている。排泄の誘導は、さりげなく利用者に合わせて行い、日中は全員がトイレで排泄している。各居室にトイレはあるが、夜間ポータブルトイレを使う利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認している。看護師や主治医に相談して指示をいただいている。毎日の体操で身体を動かしたり、食べ物や飲み物で工夫している。	排泄チェック表にて個々の状態を把握しながら排泄パターンを確認している。看護師や主治医に相談して指示をいただいている。毎日の体操で身体を動かしたり、食べ物や飲み物で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴は可能であるので希望に添える様になっている。また、入浴の際は本人に必ず確認している。個々の状態に応じて清拭や足浴を行っている。	毎日の入浴は可能であるので希望に添える様になっている。また、入浴の際は本人に必ず確認している。個々の状態に応じて清拭や足浴を行っている。	いつでも希望に沿った形で入浴が出来る体制になっている。ひばの木で出来ている浴槽もあり、木の香りで温泉気分になれる。入浴を嫌がる方には、介助の人を替える、時間を替える、翌日にするなど柔軟に対応している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家 グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(日和(ひより))	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人一人の24時間の状況を確認しながら休息していただくようにしている。朝起きる時間や寝る時間は個々に合わせている。夜間の居室の明るさについては本人の意向や状態に合わせている。	1人一人の24時間の状況を確認しながら休息していただくようにしている。朝起きる時間や寝る時間は個々に合わせている。夜間の居室の明るさについては本人の意向や状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬など薬は管理をしている。個人ファイルに処方内容がファイルされているので都度確認が出来るようになっている。体調の観察は毎日行う。	内服薬など薬は管理をしている。個人ファイルに処方内容がファイルされているので都度確認が出来るようになっている。体調の観察は毎日行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の今までしてきた得意な事やできることを継続できるように担当職員が中心となり見出し出している。外に出掛ける機会を多くして気分転換が出来る様にしている。また、季節の行事や外出をしている。	本人の今までしてきた得意な事やできることを継続できるように担当職員が中心となり見出し出している。外に出掛ける機会を多くして気分転換が出来る様にしている。また、季節の行事や外出をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	希望に添えるように支援している。本人の要望はご家族様に伝え、こちらでの対応が出来ない場合はご家族様に協力をお願いしている。	希望に添えるように支援している。本人の要望はご家族様に伝え、こちらでの対応が出来ない場合はご家族様に協力をお願いしている。	お墓参り等には、家族の協力を得ている。一度にみんなで出掛ける事は難しいが、数人ずつ車で少し遠くまで出かけ気分転換を図っている。法人の業務改善コンテストで今年は「みんなで外に出る時間を作ろう」を目標とした。外出一覧表を作る等の工夫で外出が増える様に職員が一丸となって頑張っている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたいものがある時は個々の意向に沿い支払いを支援している。個人の預かり金は出納帳で管理してご家族様に定期的に報告している。	買いたいものがある時は個々の意向に沿い支払いを支援している。個人の預かり金は出納帳で管理してご家族様に定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望の時は都度対応、支援している。本人の想いを書き留めておきご家族様に見せている。	電話を掛けたい希望の時は都度対応、支援している。本人の想いを書き留めておきご家族様に見せている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については、温度調整や光の調整を皆さんに確認しながらしている。テレビの音量や職員の声の大きさにも気をつけて居心地良く過ごせるように配慮している。	共有空間については、温度調整や光の調整を皆さんに確認しながらしている。テレビの音量や職員の声の大きさにも気をつけて居心地良く過ごせるように配慮している。	建物の二階がグループホームになっていてフロアからの眺めは良く、特に夜景が素晴らしいとの事である。テーブルが移動式でその時々に応じて席替えを行える。フロア内は季節感を感じてもらえるようその時々行事の飾りものをしてしている。床は、利用者と共に掃除をしていて清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心して座れる場所を確認している。テーブルの配置や座る場所は本人の気持ちを尊重して工夫している。	安心して座れる場所を確認している。テーブルの配置や座る場所は本人の気持ちを尊重して工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた者や馴染みのあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。本人が安心して過ごせるように、本人とご家族様に相談しながら工夫している。	入居時には使い慣れた者や馴染みのあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。本人が安心して過ごせるように、本人とご家族様に相談しながら工夫している。	自由に使いなれた家具やテーブルを持ち込みその方らしい居室になっている。希望があればベットを使わず和式の布団で休まれている利用者もいる。本人と家族で相談しながら布団の交換や衣類の入れ替えなども行い、安心して快適に過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の「できること」に着眼点を置いている。出来る事を見い出して「できること」が継続できるように見守りや声掛けをして支援している。	本人の「できること」に着眼点を置いている。出来る事を見い出して「できること」が継続できるように見守りや声掛けをして支援している。		